

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-65

部門名: 4.校内研修プログラム開発・実践部門
エントリー名: 高崎市立六郷小学校 井出悠介
 平成30年度第1回次世代リーダー育成研修

活動名: 考えを深める授業づくり ～学習スタンダードの実践を通して～

解決すべき課題:

新学習指導要領の実施に向けて、若手からベテランまでが今までの指導方法をもう一度見直し、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを考えていく必要がある。そのために、校内研修で自由に話合える場や授業を見合う時間を設け、同一歩調で以下の課題を解決していくことが必要だと考えた。

課題1: 「目指す児童像」の明確化

課題2: 「考えが深まった姿」とはどのような姿なのか

課題3: 「考えを深める」ためにはどのような授業づくりを行えばいいのか

目標・方針: 「自分の考えを深めることができる児童の育成」

児童の考えを深めるために六郷小学学習スタンダード(資料1)で授業実践に取り組むことを年度当初に全職員で確認した。次に、課題解決に向けての話合い、若手、ベテラン関係なく自由に意見を言えるようにホワイトボードや付箋紙を使って行った。また、話合いで決まったことを実際の授業に取り入れ、それを全職員で見合うことにより研修の方向性を確かめる機会とした。授業検討会を行う時は、ワールドカフェ方式を取り入れ、様々な情報にふれることで教員の指導力向上も図った。話合いで決まったことは職員室内に作った校内研修掲示板(資料2)に掲示していつでも確認できるようにした。

活動内容:

年度初めに研修推進委員会で昨年度までの流れを確認し、今年度の方向性を確かめた。その中で、六郷小学学習スタンダードに準じて授業を進めていくことを共通理解した。

低・中・高学年ブロックと最終的に目指す児童像を設定するために、ホワイトボードと付箋紙を取り入れた話合いを行い、具体的なゴールを明確にした(資料3)。また、各ブロックの考えが深まった姿を決めるためにNITSの映像資料を視聴した。その中で、「つながり」が考えを深めるためのキーワードになることが分かり、そのことを共通理解し、考えが深まった姿を設定した(資料3、4)。

年度当初で決まったことを基に、研修主任が4月下旬にモデル授業を行い、全員で授業を参観し、検討する場を設けた。そこで全体交流で児童が調べたことを基にめあてに関わる新たな問いを投げかけることで児童の考えを深めていくことができることを職員全体で確認をした(資料5)。

6月に行われた市教委訪問では、職員一人一人が同一形式の指導案で六郷小学学習スタンダードに基づいた授業を実践した。学習の振り返りを「わ・が・と・も」(わ:わかったこと が:がんばったこと と:友達から学んだこと も:もっと知りたいこと)の視点で行かせたところ、児童が本時の学習からさらに調べたいことを見つけ出し、次時へのつながりをもつことができることが分かった。これは、新学習指導要領の探究活動につながることを話し合いの中から見出すことができた(資料6)。

7月、8月に研修の方向性を教育委員会の指導主事の指導を受けながら修正をし、それを受けて9月から1月までに行われる各学年の代表授業の指導案検討を行った。

活動の成果:

授業実践を始める前に課題1、2について話し合いを重ねたことで目指すゴールが明確になり、課題3を具体的に考えることができた。また、それを確認するために行ったモデル授業や6月に行った代表授業で検討を重ねたことで早い段階で方向性を修正でき、課題解決に向けて研修に取り組むことができた。さらに、多くの先生方が気軽に話し合えるように研修を行う際にホワイトボードや付箋紙を使ったり、若手とベテランが混ざった班編成をしたりしたことで自由に意見を言える場と教える、教わるという関係もつくることができた。

学習スタンダードに基づいた授業を行ったことで児童が授業の流れをつかむことができ、学習の見通しをもつことができるようになった。そして、自ら課題を見つけ、解決しようとする態度を身に付けることができるようになった。

アピールポイント(アイデアや工夫):

- ・目指す児童像や考えが深まった姿など、課題に関わることを常に話し合いながら共通理解を図ったことで、職員全体で進んでいく方向をぶれないようにすることができた。
- ・校内研修で話合ったことを職員室の掲示板に掲示し、いつでも振り返ることができるようにした。
- ・振り返りを「わ・が・と・も」の視点で行かせたことで、次時への課題意識をもたせることができた。

資料1『六郷小学学習スタンダード』

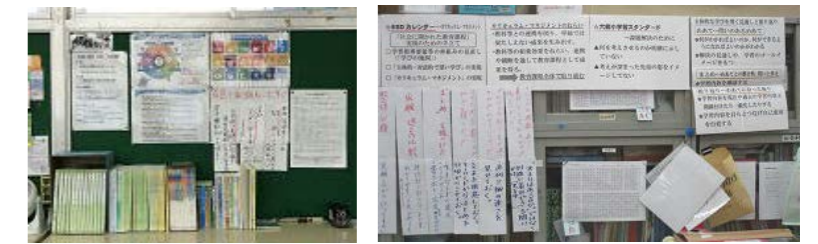
六郷小学学習スタンダード
 考える力の育成を目指して
 思考力・表現力を確実に育てる六郷小方式
 <7つのポイント>

学習過程	学習の流れに沿った工夫等
つかむ	① 問題を提示し、既習内容を想起し、「こうすれば出来るぞ」という見通しを持たせ、めあてを「どのよう」にといった問いの形で設定する。 ・前時学習のふりかえり ・問題の内容を把握させるために声に出して問題を読ませる。(自分のこととして考えさせる) ・ペアでの相談(ぶつづつタイム) ・解決方法を話し合い、共有化を図る。 ・教科書やノートの活用
自力解決	② 問題に対する答えや自分の考えを、理由も書いてわかりやすく書く。 ・大切そうなことばに線を引く ・言葉(数字・式)、図や表に表す ・習ったことの活用 ・結果から「なぜ」を考える
学び合い	③ 話す相手を選ばず、分かりやすい発表の仕方や適切な声の大きさを説明する。 ④ 自分の考えとの共通点や相違点に気づいて話しを聞く。 ⑤ 理由や根拠に基づいて話し合いを行う。 ・顔型の活用 ・グループ発表や全体発表の仕方(問い返しによる説明の積み重ねで深い学びに)
まとめる	⑥ 学習した用語や考えを自分なりの言葉でまとめる。 ・キーワード(学習用語)の確認・ねらいとの整合性
振り返る	⑦ 学習を振り返り、学習した用語や考えを自分なりの言葉でまとめる。 ・4つの視点(わ・が・と・も)で振り返る。(わかったこと・がんばったこと・友達から学んだこと・もっと知りたいこと)

自力解決や学び合い過程で、自分の考えを、言葉(数字・式)、図、表や絵等を使って記述、説明し、話し合う活動

思考力・表現力の育成

資料2『校内研修掲示板と話合いで出た意見などの掲示物』



**資料3『目指す児童像・考えが深まった姿』
校内研修の目指す児童像**

低学年	自分の考えを伝え、相手の話しを聞くことができる児童
中学年	友達の考えの共通点や相違点に気づいて表現できる児童
高学年	根拠を明確にししながら自分の意見を伝え合い、考えを深められる児童
ゴール	自分の考えを深めることができる児童

考えが深まった姿

低学年	友達の考えに気づくことができた(新しい考えを発見する)
中学年	友達の考えや根拠を基に共通点や相違点に気づいて表現できる(意見を比較する)
高学年	友達の考えや調べたことなどから自分の考えを再構築することができた(再構築)

資料4『NITS 田村学先生の「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」を視聴し、目指す児童像や考えが深まった姿を話し合っている場面とホワイトボード』

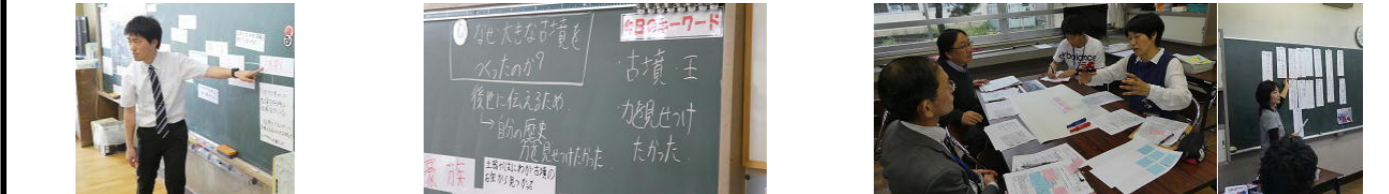


資料5『研修主任によるモデル授業と授業検討会の様子』

めあての確認と授業の見通しを立てる→付箋紙を使った自力解決→ホワイトボードを使った話し合い活動



全体での意見の整理→考えを深める問いとキーワードの明確化→ワールドカフェ方式の授業検討会



資料6『計画訪問代表授業と授業検討会』

学習計画表を使って単元の学習を→前時に立てた自分の考えをグル→全体交流でキーワードを→ワールドカフェ方式の授業検討会振り返り、本時のめあてをつかむ →ブで話し合い、実験をして確かめる 見つける

